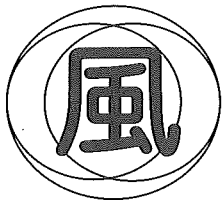


関西いのちの電話

こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
0120-738-556
毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00



琵琶湖に向かいて

関西いのちの電話 事務局長 八尾 和彦

たまにJR湖西線に乗って琵琶湖に出かけることがある。夏過ぎたシーズン・オフ、近江舞子で降りてみる。水が香り、砂浜のザクザクという足音と共に静かな波音が聞こえる。遠くには沖ノ島が横たわって見える。

雪景色が見たくて今津に降りたこともある。後ろには雪化粧の比良山がそびえ、雪を踏みしめながら湖岸まで歩くと、近くに真綿に包まれたかのような竹生島がこんもりと浮かんで見える。

琵琶湖を目の当たりにしながら、昔を思い出す。あの頃の自分は何だったのか。過去を振り返り、今の自分は何なのかと問うてみる。そして自分自身の将来のことを思う。こうして「過去・現在・未来」を行き来しながら、しばらくの時を過ごす。

「こころ」の語源は「ころころ変わるもの」と、ある人から教わったことがある。「こころ」はそもそも、ころころ変わるものらしい。でも琵琶湖と向き合っている時、自然と「こころ」が落ち着いてくる。琵琶湖は不思議と私の「こころ」を落ち着かせてくれるのだ。

小さい頃、自転車に乗って一人でマキ水泳場回り

まで出かけたり、近くの八幡山に登っては、春夏秋冬の琵琶湖を眺めたものである。私にとって琵琶湖は、まさに「こころ」の“ふるさと”なのだ。

しかしながら、今ではこの琵琶湖も変わった。かつては水は透き通り、砂の一粒一粒が液晶画面のように鮮明に見え、実に綺麗であったが、今は汚染され水は濁っている。春先の山々からの雪解けの水が減り、湖水の循環が悪くなって水質が悪化したり、栄養過多で水草が繁茂しているという話も聞く。また水不足で水位低下が長期化することもあった。とは言っても、幸いにも地震・洪水による大災害には見舞われることもなく、少なくとも見た目には、“ふるさと”の面目は保たれていると私には思える。

長浜では、“日本の夕陽百選”のひとつにもなっている絶景が見られると言う。山の向こうに太陽が沈む。夕焼けは徐々に色濃くなり、それが湖面にも映えて目の前は夕陽のパノラマと化すらしい。一度、天気の良い日にそこへ出かけ、琵琶湖の夕暮れの風景を満喫してみたいものである。琵琶湖は“ふるさと”を彩る。

第29回いのちの電話相談員 全国研修会

北九州大会 参加報告
 大会テーマ：つなぐれ いのち・未来の発見
 開催日：2011年10月1日～3日 会場：北九州芸術劇場 他

本田路津子さんの「秋でもないのに」の歌声のり、全国研修会は初日の幕を開けました。会場の北九州芸術劇場大ホールには、650人を越える相談員と、一般の参加者450人余りで、ほぼ満席という状況でした。「見上げてごらん 夜の星を」や「一人の手」など、懐かしい歌声に雰囲気が盛り上がり、会場が一体となった頃、精神科医の北山修氏が登壇されました。北山氏は、母子像を描いた約400枚の浮世絵の研究を通し、「母と子、そして二人が共に見つめる事物の3者間関係の構図（共視）が、日本人の愛の原型であり、母子関係は“横並びの交流”である。幼少時代に育まれたその愛の原型は、西洋にはない独自のものであり、日本人の人間関係の基底に流れている」ということを示されました。ご講話の後、会場の参加者との質疑応答もあり、非常に充実した基調講演でした。

その後の開会行事では主催者や来賓からの挨拶の後、センター毎に紹介された相談員たちが手を振って全国の仲間に挨拶をし、拍手でエールを送りました。また夜には交流・懇親会が開催され、他のセンターの相談員と交流を深めることができました。

二日目は、バラエティに富んだ内容の分科会とワークショップが各10テーマ開催されました。“関西いのちの電話”からも15名が12テーマに参加し、知識習得や意欲向上につなげることができました。

三日目は、国際会議場メインホールにおいて、

「いま、改めて問う“いのちの電話”の使命と課題」というテーマでシンポジウムが開催されました。

“関西いのちの電話”からも、シンポジストの一人として長尾文雄氏が参加されました。まず、シンポジスト3名からの講演の後、コメンテーターからコメントが語られ、シンポジスト同士の意見交換がありました。

その中でキーワードとなったのが、“変化”、“つながり”、そして“多様性”です。「東日本大震災は被災者には直接的に、また非被災者にも間接的に“変化”を強要したが、人々の横の“つながり”が被災者の生きる力を支えている」「電話相談員のボランティア概念の変化やコーラーの病理性の“多様化”など、環境や状況が大きく変化する中で、それに合わせた研修内容が必要である」「自殺に関する医学的学問の充実から、相談員もより科学的視点も加えて研修をしなければ、地域社会との連携に破綻をきたす恐れがある」という、それぞれシンポジストの意見を踏まえて活発な議論がなされ、聴衆は時に深く頷き拍手が上がる場面もありました。最後にコーディネーターが、「違いや多様性を活かせる組織になれば、変化に対応し社会の要請に応え、手を差し伸べることができるのでないか」と締めくくり、2時間半の討論が終了しました。その後、来年度の開催センターである“北海道いのちの電話”が紹介され、北九州大会の幕が閉じられました。

(広報委員長)



関西いのちの電話 第30回公開講座

NHK歳末たすけあい配分金による事業

たましいのケア

死生学の視点からいのちを考える

講師：関西学院大学人間福祉学部 教授 藤井美和氏

☆日 時 2012年3月3日(土)午後2時30分(開場午後2時)
 ☆会 場 真宗大谷派・難波別院(南御堂)御堂会館 南5階ホール
 TEL:06-6251-5820 大阪市中央区久太郎町4-1-11
 ☆参加協力費 1,000円(当日1,200円)
 ※座席に限りがございますので予めご諒承ください

《お申し込み・お問い合わせ》
 関西いのちの電話事務局
 TEL:06-6308-6868
 E-mail: kairind@age.ac

交流・懇親会に参加して

小倉駅祇園太鼓同好会の方々の力強い演奏から始まり、食事を囲みながらの懇談、モンゴル人留学生による馬頭琴演奏、各センターからの1分間スピーチなど、まさにあつという間の3時間でした。日頃お会いすることのない他のセンターの方々と、テーブルを囲んでざっくばらんにお話できたことは、とても楽しく心休まるひと時でした。その中で特に印象に残ったのは、相談員不足という共通の課題に加え、センター独自の課題が数多く存在するという事です。苦しい状況を抱えながら、力を合わせて頑張っている様子を聞き、とても刺激を受けることができました。

北山修先生のご講演で、浮世絵などの母子像を例にあげ、同じものを見ながら横並びで繋がっているというお話がありました。私たち“いのちの電話”の相談員も、場所や条件は違っていても、同じ方向を向き、確かに繋がっているのだと思います。全国研修会は、全国の相談員にとって繋がりを確認しあえる一体感醸成の場であり、意識を高めてお互いが癒し合える場であると改めて感じる

ことができました。“北九州いのちの電話”の皆さん、本当にありがとうございました。

さて、再来年2013年に“関西いのちの電話”が40周年を迎え、全国研修会を大阪の地で開催することが決まりました。今度は私たちが全国の皆さんをお迎えする番です。年に一度の有意義な場となるよう、力を合わせて頑張りたいと思います。

(広報A.S.)



モンゴル人留学生
による馬頭琴演奏

2011年度バザーを終えて

11月5日朝8時半、模擬店コーナーの机が並んだ中庭で小雨模様の空を不安気に見上げる事務局長。模擬店のスペースを屋内に急きょ確保するのは難しく、雨が降り出す迄中庭ですすめることとなった。教会内のバザーも開店の10時前には近所の方々が列ができ嬉しいスタート。遠方から相談員が家族、友人を連れての参加で楽しい交流。衣類、生活用品に加え産地直送のリンゴ、みかんが新鮮な香りを漂わせ、中庭の東屋占いが神秘的な趣を加えた。ゲームでの景品をどれにしようかと真剣に悩むボクちゃん、綿菓子を鼻のてっぺんにくっつけているおばちゃん、「焼きそば、

もう3人前しか残ってないよ」の掛け声に満腹だからと申し訳なさそうなご夫婦。中庭で安来節の踊りどじょうすくいが始まる。しとしと雨で地面もほどよく湿り、素足ピチヨピチヨと泥土がはね、濡れた芝生を右に左にと、大きなザルで掻き分けて、どじょうを追いかむ様の絶妙さに拍手喝采。低い曇り空に反響した賑わいの声に、みんなの体がくるまれたようであった。模擬店の食べ物完売と同時に降り出し、早目の片付け。教会から荷物をリヤカーで馳せ足の往復。びしょ濡れの髪も衣服も何故か熱気で直ぐ乾燥。曇りのち雨の中皆の力で38回バザーを終えることができた。

バザーにご寄贈くださいました

株)江崎グリコ様 株)近江兄弟社様 有)なかの様
皆さまに深く感謝し、心をこめてお礼申し上げます。

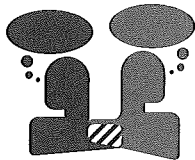
株)ダイドー繊維様 株)東リ様 ミートショップ様
(バザー委員長)



24時間・365日「眠らぬダイヤル」として 相談活動をおこなっています

皆さまのご支援が いのちをつなげ、電話をつなぎます。
活動資金が必要です。いのちの電話の活動を支援してください。

※お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上に優遇されます。
口座名義：社会福祉法人・関西いのちの電話 理事長 李 清一
口座番号：ゆう貯銀行・郵便局 00990-3-68480
：三井住友銀行 十三支店(普) 998829



傾聴と共感 (8)

「人を助けるとは…」

人を助ける、支援するというイメージには、三つの種類があるといわれています。

パソコンなどの操作が分からない、〇〇の手続きが分からないどうすればいいのでしょうか。これに対する支援は、パソコン操作や手続き方法に熟知している人が的確に指示をすることで解決されます。

二つ目は、医師による支援です。身体の不調の訴えに医師は検査結果などをもとに、症状を判断し、適切な処置や投薬をすることで支援をします。

この二つの支援は、とても分かりやすい支援です。一般的に電話相談というと、熟知している者が的確なアドバイスを提供するというイメージです。ところが、いのちの電話で支援しようとしている電話相談は、ちょっと違いますよね。

「死にたい…」、「周りとうまくいかないんです」「眠れないんです」「一人ぼっちで寂しいのです」

など、いまの気持ちを訴える電話ばかりですね。

それを支援するのは、指示でもなく、診断や処方でもありません。訴えている人自身でもどうしたいのかよく分からないし、どのように体調がおかしいのかにも気づいていないのです。しかし、「いま」感じている落ち着かない気持ちや揺り動かされていることだけは、分かっているのです。

このような人に対する支援は、「いま、ここ」でその人の中に何が起きているのか、特にどんな気分になっているのか、どんな気持ちに翻弄されているのかをしっかりと受けとめることです。

しかし、聞き手も相手の右往左往している様子に動かされて、事柄を訊ね、その顛末を明確にして、的確な提案をすることになりがちです。

ここでの支援は、まず、相手の様子と言葉に耳と心を傾けて、受け止めて、「いま、あなたは〇〇な気持ちなのですね」と、あたかも相手を写す鏡のように思いやりを持って伝え返すことです。

これが三つめの支援のイメージです。

(長尾文雄)



ボランティア募集中 — あなたも私たちの活動に参加しませんか—
第48期電話相談員養成講座のご案内

- ◆ 募集期間 ☞ 2012年2月1日(水)～3月24日(土)
- ◆ 養成期間 ☞ 2012年4月～2014年3月(2年間)
- ◆ 講座内容 ☞ 1年目は、1泊研修(1回)、週1回の講義(毎週木曜日・午後6:30～8:30)、ケース研究、実習があります。
☞ 2年目はインターンとして実習とスーパービジョン及び各種研修があります。

☎ 社会福祉法人 関西いのちの電話
〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
電話:06-6308-6868 <http://www.kaindnew.com>
《募集要項は事務局までご請求ください・ホームページからダウンロードできます》

電話相談受信状況

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	1,978件	2,071件	2,091件	1,895件	1,939件
相談員数(延)	492人	485人	511人	472人	493人

編集後記

北九州での全国研修会の報告を特集いたしました。再来年は「関西いのちの電話」がその開催を担当いたします。皆の力で是非とも成功させましょう。(E.I)

荒磨の原子炉建屋紅葉染む

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
発行人 李 清一 編集 広報委員会
ホームページ <http://www.kaindnew.com>